

今週のビルマのニュース
2009年9月18日【0935号】

歌手のジェーン・パーキンが国会議員に訴え

・来日中の歌手・女優ジェーン・パーキンさんが15日、「ビルマ（ミャンマー）の人権状況を考えるラウンドテーブル」（アムネスティ議連主催）に出席した。天然ガス輸出による莫大な収入が国民に還元されていないことを指摘し、軍政には制裁が必要だと述べ、圧力をかけるよう日本政府に求めた。また、10年前にヤンゴンでアウンサンスーチーさんと会ったときの思い出も語った。

・新政権発足前夜の開催となった本会合には、翌日内閣入りした民主党の千葉景子氏（法相）や社民党党首の福島瑞穂氏（消費者・少子化担当相）のほか、江田五月参議院議長、自民党の中川秀直元幹事長ら多数の議員が出席した。ビルマ情報ネットワークの秋元由紀も講師として参加し、「ビルマ国民の側に立ち、国際社会と連携する日本へ」と題して、新しいビルマ政策について新政権への提言を行った。

日本のビルマ政策は変わるか 鳩山首相過去の発言

・新政権の発足で、日本のビルマ政策が変わるかどうか国際的な注目が集まっている。鳩山首相は日本人ジャーナリストの長井健司氏がビルマの治安部隊に射殺された直後の2007年10月に、福田総理（当時）に「日本政府こそ、国際社会の先頭に立って、今こそ軍政側に厳しく自制を求め、スー・チーさんを初めとして拘束されているすべての人々を解放させ、ミャンマーの民主化が実現するようにあらゆる努力を行うべきです。その覚悟はおありか、お伺いをします」と問いただしている（国会議事録より）。

・他方、関係省庁中堅幹部や日系企業関係者が、ビルマで貿易投資ワークショップを開催し、工業団地の視察などを計画している。来年予定の総選挙を機に米国などが対ビルマ制裁を緩和した場合に備え、ビルマとの貿易や投資の可能性を検討し人脈を築いておくのが狙いとのこと（12日共同）。

NLD 幹部が有力紙に寄稿、「総選挙はいんちき」

・国民民主連盟（NLD）の幹部で、昨年末まで政治囚として収容されていたウィンティン氏（80）がワシントン・ポスト紙に寄稿した。「国際的な観測筋の一部には、来年に予定されているこの選挙をチャンスと捉える向きもある。だが国軍製の憲法が押しつけられている状況下では、選挙はいんちきなものにしかならない」と述べ、総選挙の実施を支持する一部の国際社会の動きをけん制した（9日同紙）。

アウンサンスーチー氏の控訴、10月に判決へ

・5月に米国人男性を家に入れたことが国家防衛法違反とされ、8月に有罪判決を受けた民主化指導者アウンサンスーチー氏の控訴審が18日、ヤンゴン地裁で開かれた。氏の出席は認められなかった。10月2日に判決が出るとのこと（18日 APほか）。

軍政が約7100人への恩赦を発表、政治囚も

・軍政は17日、約7100人に恩赦を与えると発表した。18日に釈放された中には政治囚も少なくとも19人含まれていた（18日 AFP、政治囚支援協会）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

新たな発表はなし

イベント情報

・在日ビルマ人共同行動実行委員会ほか 1988年9月18日一軍事クーデターから21年：ビルマ軍政に抗議し、アウンサンスーチーさんと全ての政治囚の釈放と民主化を求める抗議行動（在日ビルマ大使館前、18日14～16時）

・日本ビルマ救援センター「2009年夏 国境訪問報告会」（クレオ大阪東 研修室2F、20日18時～）

・国際NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ パネルディスカッション「ビルマの2007年サフラン革命一立ち上がった僧侶たちの今」（日本外国特派員協会、25日15時半～）★要申込。

・第4回 UNHCR 難民映画祭・東京「Burma VJ」（イタリア文化会館 10月3日18時半～、ドイツ文化センター 10月6日17時～）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165